

一 岳 村 誌 上 卷 目 次

表紙空押図柄 亀子 誠

見返し

(表) 道者登拜時代寛政のころの御嶽山絵図
(裏) 明治初年の御嶽山絵図

村誌発刊にあたって

凡 例

執筆分担

自 然 編

地 形 地 質

第一章 村の自然概観

一 境 域 3

(一) 村の相対的位置と境域 3

(二) 各区の区境 5

二 位置 面積 6

(一) 村の位置 6

(二) 村の面積 10

三 気象 動植物 11

第二章 地形 地質

一 地 形 12

二 地 質 23

(一) 地質時代の区分 23

(二) 長野県の地形 地質の概観 25

1 地 形 25

2 地 質 29

(三) 木曾地域の地質 36

(四) 三岳村の地質 42

1	概観……………	42
2	古生代後期の堆積岩類（古生層）……………	44
3	中生代末期の酸性岩類および堆積岩類 （白亜紀層）……………	61
4	第三紀層から第四紀の火山岩類および 堆積層（第三紀層から）……………	65
5	三岳村地域の地質構造……………	80
第三章 御岳火山……………		
1	概説……………	83
2	岩石類および火山噴出物につ ての概説……………	88
(一)	火成岩……………	88
(二)	マグマの性質の違いと岩石の違い……………	90
(三)	火山岩類……………	91
(四)	火山抛出力と火山砕屑岩……………	91
3	御岳山一九七九年の噴火……………	94
4	御岳火山の地質 岩石……………	102
(一)	御岳火山の概要……………	102
第四章 応用地質……………		
(一)	温泉 鉱泉……………	113
一	鉱物……………	120
(一)	褐鉄鉱……………	121
(二)	マンガン鉱……………	123
第五章 三岳村の化石……………		
植 物……………		
第 章 植 物……………		
一	植物の分布……………	131
(一)	現在の植物分布（植生帯と垂直植 生）……………	133
(二)	三岳村の植生……………	135
一一	珍しい植物……………	145
三	身近な植物……………	157
(二)	御岳山の生い立ち（地史）……………	105

(一) 早春〜春	157
(二) 夏の植物	168
(三) 秋の植物	172

第二章 植物と生活伝承

一 行事と植物	178
二 生活と植物	181
三 口承と植物	182
四 医療と植物	183
五 三岳村の植物の方言	184

動物

第三章 総論	189
--------	-----

一 三岳村の動物相の位置づけ	189
(一) 動物地理区分から	189
(二) 植生区分から	190
1 村落地帯	190
2 山地広葉樹林	190
3 山地針葉樹林	191

4 亜高山帯針葉樹林	191
5 高山帯	192
6 河川 水面	192
7 その他	193

一 三岳村の動物相の特徴

(一) 哺乳類	194
(二) 鳥類	196
(三) 爬虫類	205
(四) 両生類	206
(五) 魚類	209
(六) 蝶類	211

第二章 三岳村に生息する動物

たちの生活	217
一 人里近くに現れる小 中型哺乳動物たち	217
(一) ヤマネ	217
(二) ノウサギ	219
(三) タヌキ	219

(四) リ ス	222	(二) 森林の冬から春	246
(五) ニホンザル	224	(三) 河川や沢をさかのぼって	254
(六) イノシシ	224	(四) 御岳山の鳥	260
(七) その他の小 中型哺乳動物	227	五 猛毒をもつへびたち	262
二 蔽しい自然の中を生きぬく大型哺乳動物たち	229	(一) マムシ	262
(一) ニホンカモシカ	229	(二) ヤマカガシ	264
(二) ツキノワグマ	232	六 清流に育つ両生類	264
三 人里の鳥たち	232	(一) カジカガエル	264
(一) 人里で見られる鳥	233	(二) ヒダサンシヨウウオ	264
(二) サギ	237	七 純上流型の分布する魚類	265
(三) ブッポウソウ	238	(一) イワナ	265
(四) ツバメ	239	(二) アマゴ	267
(五) ムクドリ	241	(三) ヤマメ	267
四 ささまざまな場所での鳥たちとの出会い	244	八 数の少ない珍しい蝶たち	268
(一) 一本の柿の木	244	(一) ムモンアカシジミ	268
		(二) ハヤシミドリシジミ	268
		(三) カラスシジミ	271

三 降水量	285
二 気 温	283
一 地勢と気象の概要	281
○ 三岳気象通報所	
第 三 章 三岳村の気象	281
四 三岳村の動物保護	276
三 害獣化の傾向	274
二 野生から半家畜へ	274
一 森林の変化	273
第三章 結論にかえて	273
(七) その他の貴重な蝶たち	272
(六) コヒオドシ(ヒメヒオドシ)	272
(五) ウスイロオナガシジミ	271
(四) フタスジチヨウ	271

四 雪	287
五 風	288
六 日 照	292
七 霜	293
(附) 木曾地方の災害頻度	
第二章 気象と人生	295
天気に関する俚諺	295
(一) 山と川	295
(二) 動 物	296
(三) 植 物	297
(四) 人 間	297
(五) 日常生活	298
(六) 方 位	298
(七) 自然現象	299
(八) 天 体	299

民俗編

第二章 三岳村の民俗	304	四 交通 運輸 通信	371
一 社会生活	304	(一) 村の交通路	371
(一) ムラ組と役員	304	(二) 運搬 運輸	374
二 家族	315	(三) 通 信	384
(一) 主人	315	五 交 易	386
(二) 主婦	315	(一) 物々交換	386
(三) その他の家族	316	(二) 行 商	386
(四) 隠 居	316	(三) 市取引(馬市)	387
(五) 呼び方	317	六 衣 食 住	389
(六) 分 家	317	(一) 衣	389
三 生産 生業	318	(二) 食	400
(一) 農 耕	318	(三) 住—建築と居住習俗	410
(二) 山仕事	336	七 民 家	423
		(一) 屋敷構えと付属屋	423
		(二) 主屋の外観、規模	423
		(三) 平面と構造	424
		八 人の一生(通過儀礼)	431
		(一) 副 業	338
		(二) 交通 運輸 通信	371

	(一) 妊娠、出産、育児	431
	(二) 婚姻、婚礼	437
	(三) 葬制	444
	九信 仰	453
	(一) 御嶽神社	453
	(二) 八幡宮	458
	(三) その他の小社	459
	(四) 大泉寺	463
	(五) 普門寺	465
	(六) 堂字	467
	(七) 講	469
	(八) 法華信仰	477
	(九) 山の神	477
	(十) 水神	477
	(四) 屋内神	478
	(四) 塚	478
	(四) 幻の神仏	479
	(四) 神事のしきたり	479
十	民俗知識	481
	(一) 俗信	481
	(二) しつけ	487
	(三) 民間医療療法	488
	十一 年中行事	492
	(一) 年の暮れから正月へ	492
	(二) 春から夏へ	502
	(三) 秋から冬へ	511
	十二 口頭伝承 芸能等	515
	(一) 伝承 伝説	515
	(二) 民話	527
	(三) 語り物	530
	(四) 民謡	530
	(五) ことわざ(たとえごと)	542
	(六) なぞ	543
	(七) 言い習わし	544
	(八) 芸能と遊び	544
十三	三岳村の方言	549

石造物編

第二章 概観	73	(二) 名号碑	596
第二章 地藏信仰と石地藏	586	(三) 百万辺供養塔	597
一 はじめに	586	(四) 寒念仏供養塔	597
二 石造六地藏	587	(五) 六斉念仏供養塔	598
三 賽の河原の地藏尊	588	(六) 十三仏塔	598
四 大泉寺の石幢	589	(七) 弘法大師供養塔	599
五 守屋貞治の石地藏	590	四 二十三夜塔	599
六 水難者供養地藏	591	五 沢渡の十六善神塔	600
第三章 講と石造文化	593	六 大日如来の碑	601
一 はじめに	593	七 代参講供養塔	602
二 庚申講と庚申塔	594	(一) 秋葉講供養塔	602
三 念仏講と造塔建碑	596	(二) 津島講供養塔	604
(一) 念仏塔	596	(三) 金毘羅講供養塔	604
		(四) お洲原まいりと洲原神社神号碑	605
		(五) 三峯講供養塔	606
		(六) 天照皇大神宮神号碑	606
		(七) 覚明行者供養碑	607

八 山の神と山の講……………607

第四章 三岳村の観音様と

お薬師様……………609

一 馬産地三岳村と馬頭観音……………609

二 村の諸観音……………617

(一) はじめに……………617

(二) 聖観音……………617

(三) 千手観音……………618

(四) 十一面観音……………618

(五) 如意輪観音……………619

三 鉢泉とお薬師様……………620

四 善光寺峠の阿弥陀三尊像……………622

第五章 農耕 養蚕の守本尊

一 蚕玉様……………625

二 五穀大菩薩碑……………626

三 妙見さま……………626

第六章 交通と石造文化……………628

一 廻国巡礼塔……………628

二 常盤橋架橋記念碑……………629

三 猿橋地蔵堂……………630

四 道標と合目指示標……………631

五 道祖神……………633

第七章 村の神々……………635

一 氏神様……………635

二 水神様……………636

第八章 墓地と墓標……………637

一 墓標のいろいろ……………637

二 五輪塔……………639

三 石幢型四体地蔵……………640

四 三界万霊塔……………641

おわりに……………642

御嶽の信仰と登山の歴史編

第一章 御嶽信仰の成立と

御嶽講

一 はじめに	645
二 御嶽信仰の源流とその変遷	647
(一) 御嶽信仰の源流	647
(二) 修験道との結びつきと御嶽	649
(三) 道者による御嶽の集団登山	652
三 御嶽講社の成立とその普及	656
(一) 御嶽講社の成立	656
(二) 教派神道の発生と御嶽講社	665
四 御嶽講の組織と機能	669
(一) はじめに	669
(二) 太元講	670
(三) 黒川の御嶽講	676

第二章 御嶽祭神考

(四) まとめ

一 山神創祀の伝承と御嶽縁起	683
二 御嶽の祭神	691
三 御嶽の四門	704
(一) 四門	704
(二) 岩郷村神戸	705
(三) 三浦山	706
(四) 長峯峠	706
(五) 鳥居峠	707
四 御嶽神社里宮の創祀	709
(一) はじめに	709
(二) 黒沢本社	711
(三) 黒沢若宮	712
(四) 王滝里宮	717
五 明治の神仏分離と御嶽神社	719

第三章 御嶽信仰にみられる霊

魂観と霊神碑……………726

一 御嶽信仰にみられる霊神碑……………726

二 霊神碑建立の由来……………732

三 霊神碑の形式……………734

第四章 御嶽登山史……………737

一 道者登拝時代……………737

(一) 国峯から道者の山へ……………737

(二) 登拝習俗……………738

(三) 登山の経路……………753

(四) 山内の社祠および行場等……………758

(五) 木曾義昌の登嶽……………768

(六) 木曾路の円空仏と御嶽……………771

二 軽精進登山による御嶽信仰の全

国普及……………776

(一) 覚明行者による黒沢口登山道の改

修と軽精進登山の許可……………776

(二) 普覚行者の王滝口開削と御嶽講社の結衆……………785

(三) 講中登山の盛行と登山道の整備……………790

(四) 御嶽講行者列伝……………816

三 明治維新前後の登山……………835

(一) 武家 公家の御嶽信仰……………835

(二) 御嶽遭難史……………837

(三) 採葉登山……………842

(四) 外国人の登山と近代登山のはじまり……………849

四 明治から昭和初期までの御嶽登山

山……………886

(一) 明治初期の登山道と山小屋の整備……………886

(二) 女人登山制限の撤廃と文人、詩人

等の登山……………892

(三) 登山者数の変遷……………899

(四) 御嶽街道の改修……………	901
(五) バス路線の開通と峠道の衰微……………	902
五 戦後における自動車交通の発達 と登山道……………	904
年表……………	909